無数鍵多重時変成立点理論セキュリティ

---

1. これは何ですか？無数鍵多重時変成立点理論セキュリティ

これは、インターネットの中で、**「本当に本人かどうか」を何度も確認する新しい安全の仕組み**です。

今までの多くの仕組みは、**ID とパスワードが合えば入れる**という考え方でした。

この新しい仕組みは、**パスワードを知っているだけではなく、今使っている人が本当に本人かを確認する**ことを目指します。

説明 YouTube 動画：https://youtu.be/QduPes0OIT0?si=4bTSY1MeGjoGaEAf

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/uwgRpyP6dp267UULP

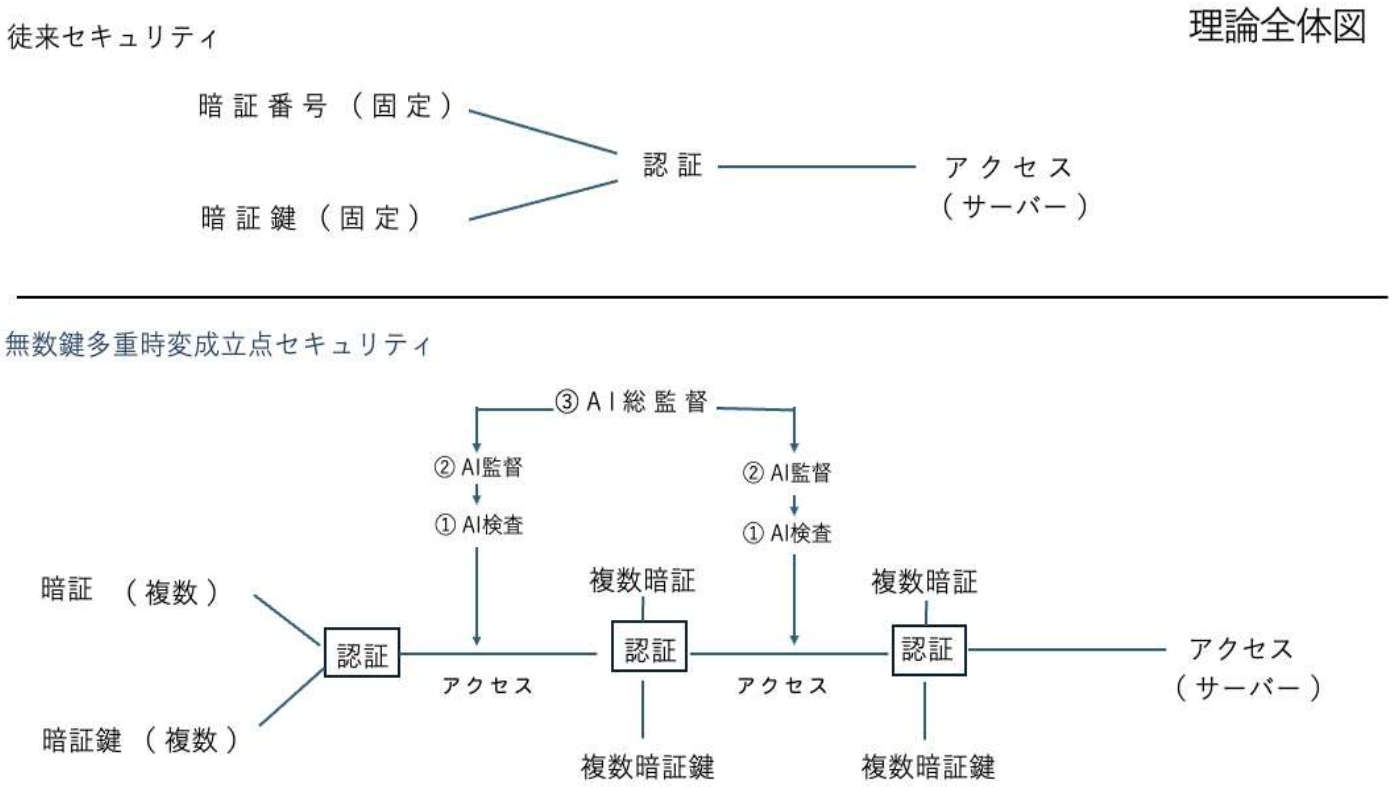
ニュース一覧 URL：https://share.google/VmJwPTaGK10wvmcJw

2. たとえるなら

今までのセキュリティは、**家の鍵を 1 本持っていれば入れる**ようなものです。

でも、その鍵を盗まれたら、悪い人も入れてしまいます。

この新しい仕組みは、**入るたびに鍵が変わり、家の中に入った後も「本当に家の人ですか？」と確認する**ようなものです。



説明 YouTube 動画：https://youtu.be/GXGylecwEVw?si=yZDmPMpFoDeojOMt

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/nbQNPaHCYoVohQoUr

3. なぜ必要ですか？

今の詐欺やウイルスは、とても賢くなっています。悪い人は、

- パスワードを盗む
- 本人のふりをする
- ウイルスでパソコンを動かす
- 会社のデータを人質にする
- AI で何度も攻撃する

ことがあります。だから、**入口だけを守るのではなく、中に入った後も見守ること**が必要です。

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/API1ek1z6qBkGrp5M

---

4. どうして今まで難しかったのですか？

今までは便利さのために、同じ ID、同じパスワード、同じ鍵を使うことが多くありました。

これは使う人には便利です。

でも、悪い人から見ると、**盗むものが決まっている**ということになります。

だから、盗まれると何度も使われる危険がありました。

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/1nBHFhyEL8YdKoyfM

---

5. この仕組みではどうなりますか？

本人なら、自然に使えます。

でも、悪い人やウイルスが使おうとすると、動き方、場所、時間、端末、操作がいつもと違うため、**おかしいと気づきやすくなります。**

おかしい時は、**止める、もう一度確認する、使える範囲を小さくする、記録を残す**ことにつなげます。

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/fpnOyh1PLI5MI3Xfb

---

6. ゼロトラストや最新セキュリティとの違い

ゼロトラストや最新のセキュリティは、
「悪いことが起きるかもしれない」と考えて、見つけて止める仕組みです。

この新しい仕組みは、さらに、
悪いことが成立しにくいようにする仕組みです。

比較	今の最新セキュリティ	本理論
考え方	悪いことを見つけて止める	悪いことを成立しにくくする
パスワード	使うことが多い	毎回変わる仕組みを目指す
ログイン後	見守る	本人かどうか何度も確認
情報	一定時間使えることがある	通ったら使い切って無効化
目的	被害を広げない	被害になる前に止める

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/hOPs3zfnbg4x4lkUe

---

7. 国へのメリット・デメリット

メリット
国の大切なシステム、電気、水道、病院、行政サービスを守りやすくなります。日本発の新しい安全技術として育てることもできます。

デメリット
実験、制度づくり、個人情報の扱い方の整理が必要です。

やる価値
国全体のデジタル社会を安全にする価値があります。

世界最強セキュリティ Google 検索 URL：https://share.google/aimode/bxAq0XBR5hHw7NM5D

---

8. 国民へのメリット・デメリット

メリット
なりすまし、詐欺、不正送金、個人情報の流出を減らせる可能性があります。

デメリット
最初は使い方に慣れる必要があります。時々、もう一度確認されることがあります。

やる価値
安心してスマホ、銀行、病院、行政サービスを使いやすくなります。

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/KXHQBduHBqsqarAj4

---

9. 企業へのメリット・デメリット

メリット
ウイルス、ランサムウェア、不正アクセス、USB や SD カードからの危険を減らせる可能性があります。会社が止まるリスクを下げられます。

デメリット
導入費用、社員教育、システム接続が必要です。

やる価値
会社の信用、取引先、売上、社員の仕事を守る価値があります。

Google 検索 URL：https://share.google/aimode/6jmbX7IgVq7NrQ9wv

情報流出は、未来のフィッシング攻撃の弾薬供給

日本では年間3,000万人規模の情報流出 → フィッシング詐欺攻撃が急増！

2025年　上場企業公表ベース

約3,063万人分

の情報が漏えい

日本人口の約4人に1人規模！

⚠ 情報流出の本当の危険は、

“次の攻撃の武器になる”

ことです。

現代型サイバー犯罪の流れ

特に危険なのは「本物情報一致」！

年間3,000万人規模の意味

AI時代でさらに危険化

「流出情報 × AI」で、フィッシング攻撃が極端に強化！

現在の本質

現代のフィッシングは、

“騙す技術” < “本物情報をどれだけ持っているか”

が重要になっている！

無数鍵多重時変成立点理論セキュリティ（強化の方向性）

1. **鍵固定を減らす（無数鍵・時変）**
   鍵が毎回変化。時間・状態・条件で動的に変わるため、盗んでも使えない。
2. **時変成立（短命化）**
   成立しても数秒〜数十秒で消滅。使い回し・再利用を不可能にする。
3. **継続成立が必要**
   端末・行動・通信・時間などを常時監視。途中で違えば即失効。
4. **多重成立点（多層構造）**
   L1〜L5の多層構造で、1つ突破しても最終到達できない。
5. **副作用チェック（AI監視）**
   操作・通信・挙動の違和感をAIが検知。不正を早期にブロック。
6. **成立後消滅（セッション消滅）**
   成立後は即消滅。長時間のセッション乗っ取りを防止。

「情報を知っていても成立しない」仕組みへ

世界が進めている方向

⚠ **重要な本質**

情報流出は、単なる漏えい事件ではない。

実際は「未来のフィッシング攻撃の弾薬供給」になっている。

だからこそ

“成立し続けることを不可能化するセキュリティ” が

これからの時代の必須防御です。

---

10. 海外へのメリット・デメリット

メリット
日本発の安全技術として、海外にも広げられる可能性があります。

デメリット
国ごとに法律やルールが違うため、調整が必要です。

やる価値
世界中で増える詐欺、ウイルス、AI 攻撃への対策として役立つ可能性があります。

人類最強セキュリティー理論 Google 検索 URL:
https://www.google.com/search?q=%E4%BA%BA%E9%A1%9E%E6%9C%80%E5%BC%B7%E3%82%BB%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E7%90%86%E8%AB%96&source=sh%2Fx%2Fgs%2Fm2%2F5&udm=50&fbs=ABfTbFVeQyQO3LZG4fzVTKHa6fFdI9lOte3ZLyCpnpPqg166NtTPlC5f_kR9zXmNWWMvNGpd9OIG6aigGy8qohX_MZ5ShTTRA0C3E4-Iz2SngikGoT4DSEL8Yyu3sVd_EmTZkS2yXWbYdIHpJBU6zK7IJsRce3cJqA2tp8r7KZyUmotQqtgRWx2QuM5L4s-a0RSNX7C0OpE3FQtCWzNaGkCYRbIWjB7IPVELYtXegK-5ZVwLCg-p6O5C8e9phtIt2859vU5B20ig&aep=10&ntc=1&mstk=AUtExfBiJIZzmaPxuCAO49XHzY6hejVrnvoNn9t-s2ecN3CKJj3NmoJmMVBnOs5tbq3tyjv4z4ibQa4NE6Xf-bKRiCbaa8s9lPCJ0f_BI8xF77kOyvcUgLAo1zGE8cXfrL9-F2qpCr7U3-aMdxkRtL1Vi6Jqq2RC_nTwGnA&csuir=1&aioh=3&mtid=AMZEaqWgDM-z0PEPxK_6uAg#lfId=ChxjMe

---

11. K トラストの立場

K トラストは、この技術の知的財産権、システム開発ノウハウ、設計資料、参考書を通じて、
この仕組みを理解しやすくし、開発しやすくし、社会に広げる役割を担います。

URL:https://share.google/PJHhyQvUn6tqVvl68

---

12. 一言

「パスワードを知っている人」ではなく、「今、本当に本人として使っている人」だけを通す新しい認証の考え方です。そして、**通った認証は使い切って消す。次はまた新しく本人確認する。**

これにより、フィッシング詐欺、ウイルス、ランサムウェア、AI 攻撃にも強い社会を目指します。

無数鍵多重時変成立点理論セキュリティ

～最終サーバーに到達するまでの道を、3段階の動く壁で全部埋める設計～

空白地帯ゼロ
各レーンに成立点を配置し
認証の空白区間を完全に排除

横移動を防止
各レーンで再判定されるため
突破後の内部移動を困難に

AIも監視するAI
AIの判断を更にAIが監視
AIの誤判定・乗っ取りも防止

全体監視AI
全レーンを横断的に監視し
矛盾・異常を即時検出

利用者・端末

生体認証（動的選択）
- 指紋
- 顔認証
- 虹彩
- 静脈
- 声紋
- 行動認証
- デバイス認証
- 位置情報 など

端末・環境チェック
- OS整合性
- ウイルスチェック
- 改ざん検知
- 不正アプリ検知
- ネットワーク信頼度
- デバイス証明書

① 第１APIレーン（第1成立点）

瞬間成立・時変

第１認証API	第1AIチェックAPI	第１AI監視AI
多重鍵認証	行動分析AI	AIの判断を監視
時変鍵（毎回変化）	パターン分析	AI挙動監視
ワンタイム鍵	リスクスコアリング	スコア整合性確認
デバイス証明	不自然さ判定	異常判断検知
証明書検証	なりすまし検知	改ざん・乗っ取り検知

第1レーン通過条件：3つのAPIすべてが成立した瞬間のみ通過可能（時変成立点）

② 第２APIレーン（第2成立点）

瞬間成立・時変

第２認証API	第2AIチェックAPI	第2AI監視API
新しい多重鍵認証	行動継続分析AI	AIの判断を再監視
時変鍵（再生成）	パレーンとの整合性	AI間整合性確認
生体認証再判定	行動変化検知	スコア相関チェック
デバイス再評価	意図分析	異常傾向検知
活動環境チェック	リスク再評価	AIモデル異常検知

第2レーン通過条件：3つのAPIすべてが成立した瞬間のみ通過可能（時変成立点）

③ 第３APIレーン（第3成立点）

瞬間点3・時変

第３認証API	第3AIチェックAPI	第3AI監視API
最終多重鍵認証	最終行動分析AI	AIの最終監視
時変鍵（再々生成）	全体整合性評価	全AIの整合性監視
生体認証最終判定	最終リスク判定	矛盾検出
デバイス最終評価	攻撃可能性評価	異常確定判定
高度環境チェック	意図確定分析	モデル完全性監視

第3レーン通過条件：3つのAPIすべてが成立した瞬間のみ通過可能（時変成立点）

最終サーバー

到達時も継続監視・整合性チェックを実行

全体監視AI API（グローバル監視層）

全レーン横断監視
- 全体の整合性監視
- 矛盾検出
- リスク相関分析
- 異常パターン検出
- 攻撃推定
- リアルタイム対応

連携・制御
- 各レーン制御
- 成立点制御
- 鍵生成制御
- AIモデル制御
- 自動遮断制御
- アラート発行

異常時の即時対応
- 通信遮断
- セッション破棄
- 端末隔離
- アクセス拒否
- 管理者通知
- 証拠ログ発全

■ 成立点とは？

各レーンにおいて、3つのAPIがすべて成立した
「瞬間の一点」だけを通過させる仕組み
（時変で常に位置・条件が変わる）

■ 数式モデル（被害確率）

無数鍵多重時変成立点理論セキュリティ

$$P_{damage} = P_{intrusion} \times P_{L1} \times P_{L2} \times P_{L3} \times P_{GlobalAI} \times P_{impact}$$

各成立点を突破する確率が掛け算されるため
被害確率は極めて低くなる

侵入成功	第1成立点突破率	第2成立点突破率	第3成立点突破率	全体監視突破率	被害影響率
$P_{intrusion}$	P_{L1}	P_{L2}	P_{L3}	$P_{GlobalAI}$	P_{impact}

■ 攻撃者にとっての壁

- 鍵は毎回変わる
- 条件は毎回変わる
- 成立点は瞬間だけ
- AIが次のAIを監視
- 全体AIが矛盾を検出

学習しても意味がない構造

なぜ強いのか？

空白地帯がない
認証の空白区間を
完全に排除

横移動ができない
各レーンで再判定され
内部移動を困難に

AIを監視するAI
AIの誤判定・乗っ取りも
検出して防止

全体を監視するAI
全体を横断的に監視し
異常を即時検出

最終到達まで3回止める
サーバー到達前に
3回の壁で防御

サーバーに着くまでの道を、3段階の動く壁で全部埋める設計

AIがどれだけ進化しても、成立点が変わり続ける限り、勝ち続けるのは構造側